

学校教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項			評価平均	5	4	3	2	1	
学校教育目標	家庭	お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で)	R1	4.6	130	27	14	1	3
			H30	4.6	125	22	17	5	1
	家庭	お子さんは 学ぶ場として 伊那養で精いっぱい取り組んでいる(精いっぱい)	R1	4.7	130	33	7	1	2
			H30	4.6	121	26	13	3	1
	生徒	自分に合った勉強や生活ができて楽しい	R1	4.6	69	22	7	1	1
			H30	4.4	62	24	7	4	2
	生徒	伊那養に入学してよかったと思っている	R1	4.6	74	17	9	0	2
			H30	4.5	66	18	10	3	1
	職員	担任している児童生徒は『自分から、自分で、精いっぱいそしていっしょに』の学校生活を送ることができる	R1	4.3	61	81	14	2	0
			H30	4.1	45	69	21	3	0
職員	学校グランドデザインの重点目標や具体的取り組みは児童生徒の願いや学びを支えるものとなっている	R1	4.3	63	69	17	0	0	
		H30	4.2	57	63	21	1	0	
外部	子どもたちは、伊那養へ通うことを楽しみにしている	R1	4.6	117	30	14	0	0	
		H30	4.7	71	20	7	0	0	
外部	学校教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」は、伊那養にあっている	R1	4.7	127	27	12	0	0	
評価の受けとめと今後の方針	<p>・学校教育目標について、「児童生徒は学校生活の中で十分に自分の力を発揮し、楽しんだり満足したりする生活ができているか」という質問に対し、家庭や児童生徒からは高い評価をいただきました。また多くの職員が、児童生徒は主体的に学校生活を送っていると評価しています。これらから、本校では学校教育目標や学校グランドデザインにそって、児童生徒に合った「自分から自分で精いっぱい」取り組む生活づくりができています。今後も学校目標にそって児童生徒が主体的に活動し満足する生活づくりを大切にしたいです。</p> <p>・「学校に行くことを楽しみにしている」「伊那養に入学してよかったと思っている」という質問に対して家庭や児童生徒から1の評価がありました。家庭の声を各部や支援チームで見返し、今後の学校運営に反映させていきます。また、1と評価した児童生徒には校長が面接をし、学習面や人間関係での悩みを聞き取りました。各部や学級で児童生徒の悩みを共有し個別相談を実施しています。児童生徒の思いに丁寧寄り添うことを大切にしたい学校運営をしていきたいです。</p>								

※ 学校教育目標「そしていっしょに」に焦点をあてて

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項			評価平均	5	4	3	2	1	
いっしょに	家庭	お子さんは学校でみんなとかかわりながら学習や活動を楽しんでいる(いっしょに)	R1	4.6	123	37	7	1	2
	家庭	友だちや先生とかかわりながら活動できる学習や生活が工夫されている	R1	4.7	127	34	9	1	1
	生徒	みんなといっしょに授業や活動することは楽しい	R1	4.5	69	20	8	2	2
			H30	4.4	62	24	7	4	2
	生徒	伊那養に友だちがいる	R1	4.5	69	21	7	3	1
			H30	4.4	66	15	12	3	2
	職員	担任している児童生徒は『自分から、自分で、精いっぱいそしていっしょに』の学校生活を送ることができる	R1	4.3	61	81	14	2	0
			H30	4.1	45	69	21	3	0
	職員	児童生徒が、仲間や職員・地域の人と関わりながら活動できる 学習や生活づくりの創意工夫をしている	R1	4.1	46	81	24	4	0
職員	学校目標に加わった「いっしょに」について「いっしょに」学び・育つという視点をより意識するようになった	R1	4.2	57	69	17	4	0	
外部	子どもたちは、友だちや先生といっしょになって学校生活を送っている	R1	4.7	124	30	8	0	1	
評価の受けとめと今後の方針	<p>・「みんなといっしょに授業や活動することが楽しい」「伊那養に友だちがいる」という児童生徒へ質問で、昨年度よりも高い評価をいただきました。また、職員の評価からも、児童生徒が主体的に仲間や職員・地域の人と関わりながら生活している様子を伺うことができます。これは今年度から学校目標に「そして いっしょに」という文言を加え、生活づくりの中で児童生徒が友達や職員・地域の人と関わることを大切にした支援をした成果であると考えます。今後も児童生徒が生活の中で友達や職員・地域の人と関わることを大切にし、人とのつながりが広がったり深まったりするように支援をしていきたいです。</p> <p>・「みんなといっしょに活動することが楽しくない」「伊那養に友だちがいない」と評価した児童生徒もいます。校長が面接をしたり、学級担任が個別相談をしたりしながら児童生徒の思いを捉えて支援をしていきたいです。また、人と関わるのが少し苦手な児童生徒の思いにも丁寧寄り添いながら、人といっしょに生活する喜びを感じあうことができる温かい学校運営をしていきたいです。</p>								

学校像ベース「人権・優しさ・確かさ・安全・安心・防災」

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項			評価 平均	5	4	3	2	1	
人権・いじめ	家庭	人権に配慮した支援がなされている	R1	4.6	129	27	10	3	2
		H30	4.6	120	30	12	2	0	
	生徒	困ったときに相談できる人(親・友だち・先生)がいる	R1	4.6	72	18	4	3	1
		H30	4.3	62	20	7	5	4	
	職員	児童生徒に対する支援や対応は人権に配慮したものとなっている	R1	4.3	59	73	18	1	0
	H30	4.3	64	58	17	1	0		
いじめ	家庭	いじめや体罰がない学校環境となっている	R1	4.6	125	32	12	1	1
		H30	4.6	118	27	11	2	4	
	生徒	伊那養には体罰やいじめはないと思う	R1	4.4	68	12	14	5	2
		H30	4.3	63	11	14	6	3	
	職員	児童生徒は、いじめや体罰のない学校であると感じている	R1	4.3	72	66	17	1	0
	H30	4.3	60	61	16	3	0		
信頼関係	家庭	担任とは、十分に連携でき、安心感・信頼感がある	R1	4.6	128	28	11	1	3
		H30	4.6	116	36	6	4	2	
	職員	家庭とは十分に連携できている(信頼関係が築けていると感じる)	R1	4.1	44	82	24	5	0
		H30	4.0	30	82	24	2	0	
	家庭	学校は、家庭の思いに寄り添い、誠意を持って応えている	R1	4.6	127	35	8	2	1
	H30	4.6	111	42	8	3	0		
職員	保護者の思いや考えをしっかりと聴き、受け止めることができている	R1	4.2	51	78	17	2	0	
H30	4.1	52	56	26	5	1			
安全・安心・防災	家庭	学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	R1	4.0	55	63	45	9	0
		H30	3.9	53	50	44	13	1	
	職員	児童生徒にとって学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	R1	3.1	9	43	56	41	5
		H30	3.0	6	30	61	40	3	
	家庭	学校は、保護者や地域と連携して防災に取り組んでいる	R1	4.2	78	60	29	3	2
	職員	学校での災害時の避難行動や防災対応が日頃から意識・準備できている	R1	3.8	28	73	46	8	0
職員	保護者や地域と連携した防災への準備・訓練が行われている	R1	3.8	32	61	57	5	0	
評価の受けとめと今後の方針	<p>・人権などに関わる質問について、家庭や児童生徒からは「いじめや体罰がない学校だ」という評価をいただきました。児童生徒の「困ったときに相談できる人がいる」という評価が昨年度よりも高かったことから、よりよい人間関係が育まれていると考えます。ただ、「いじめや体罰がある」と評価した児童生徒もいます。その児童生徒の思いに寄り添えるように、校長面接や担任との相談を実施していますが、つらい思いをする児童生徒がいなくなるように学校全体で取り組んでいきたいです。</p> <p>・信頼関係の質問について、家庭から「学校は家庭の思いに寄り添い誠意をもって応えている」というありがたい評価をいただきました。その評価により応えていくことができるように、家庭との連携を密にし家庭の思いに寄り添う学校運営をしていきたいです。また、担任と家庭との信頼関係が不十分であるという評価も真摯に受け止め、担任が家庭との関わり方を見つめ直す機会を設け、担任だけではなく部や学校全体として家庭の思いに寄り添うことができる学校運営をしていきたいです。</p> <p>・安全・安心への質問の評価から、家庭と職員が学校施設・設備について課題をもっていることが分かりました。今年度は県教委や保護者とも連携し、エアコンの設置、廊下を中心とした床の段差の解消、不審者対応の門の設置などの工事を行いました。今後も児童生徒の安全・安心な生活を支える施設設備の定期的な点検や修繕に努めるとともに、PTAと連携し改修要望等を県に要望し充実を図っていきたいです。</p> <p>・防災の質問では、PTAや伊那市危機管理課と連携した引き渡し訓練やPTA防災研修会を実施したため、学校と保護者や地域と連携した防災への取組について高く評価していただきました。日頃からの防災対応についても来年度の防災計画に反映させていきたいです。</p>								

学校像1: 様々な人といっしょに力を発揮し育つ学校
「生活づくりの充実」を目指して【学校で】

【こども理解→指導計画→授業・指導・支援にかかわること】

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項			評価 平均	5	4	3	2	1
こども理解	家庭 担任は、お子さんを理解し、特性に応じた支援をしている	R1	4.7	134	30	6	2	0
		H30	4.7	125	28	7	3	1
	生徒 担任の先生は 自分のことをわかってくれる	R1	4.5	69	19	10	0	2
		H30	4.5	67	18	6	4	2
	外部 職員は、子どもたちの障がいや特性を理解し適切な指導・支援ができている	R1	4.6	117	35	10	2	1
	H30	4.6	75	31	4	0	0	
職員	担任以外の教員(連携支援室・保健室・自立活動担当教員等)と連携し、 研究や研修を重ねながら児童生徒理解や適切な支援をすすめている	R1	4.0	42	70	26	7	0
		H30	3.9	39	62	29	9	1
家庭	学校は、家庭のニーズに応える講演会や研修会などを企画している	R1	4.3	84	57	20	3	2
		H30	4.4	90	51	19	3	1
個別の 指導計画	家庭 個別の指導計画には、家庭の願いが反映されている	R1	4.7	130	35	3	1	2
		H30	4.6	110	45	5	3	1
	職員 児童生徒の実態や家庭の願いをもとにした 「個別の指導計画」の作成・検討が行われている	R1	4.2	49	73	23	1	0
		H30	4.1	40	73	15	3	0
	家庭 個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践されている	R1	4.6	117	42	9	2	1
		H30	4.5	101	52	5	3	2
家庭	将来の社会生活につながる学習が展開されている	R1	4.4	101	49	19	2	1
		H30	4.3	87	48	22	4	2
職員	「個別の指導計画:教育課題」の実現に向けた取り組みを、日々の授業で行っている	R1	4.2	46	79	21	1	0
		H30	4.1	36	74	20	1	0
授業・ チーム支援	家庭 学校・部・学級の職員が連携して、子どもの支援に取り組んでいる	R1	4.6	114	44	12	2	1
		H30	4.5	110	37	13	3	1
	職員 部・学年・学級毎の職員相互の関係は、 児童生徒への指導・支援に向かう『チーム』となっている	R1	4.0	50	61	29	7	1
		H30	4.1	47	65	25	2	1
	家庭 部・学級の日課や授業内容はお子さんに合っている	R1	4.6	113	44	12	3	0
		H30	4.4	93	52	14	3	1
職員	所属部の教育課程は、 担任する児童生徒の『精いっぱい』ができる状況づくりとなっている	R1	4.1	45	72	22	5	0
		H30	4.1	43	67	25	2	0
職員	日々の授業づくりや指導は、児童生徒個々が目指す 『自分から自分で精いっぱい できていっしょに』につながっている	R1	4.0	43	72	33	4	0
		H30	4.0	30	80	26	2	0
家庭	小→中→高の発達段階に応じた学習や支援が積み重ねられている	R1	4.3	87	51	25	1	4
		H30	4.2	81	43	31	3	2
職員	小・中・高の教育課程は『つながり』のあるものとなっている	R1	3.5	17	56	64	16	1
		H30	3.6	14	68	52	6	0
評価の 受けとめと 今後の方針	<p>・こども理解の質問について、家庭からは「児童生徒を理解し特性に応じた支援をしている」、児童生徒からは「担任は自分のことをわかってくれている」という評価をいただきました。児童生徒の思いや実態に寄り添った生活づくりを今後も大切にしていきたいです。また、「担任は自分のことをわかってくれない」と評価した児童生徒もいました。その児童生徒への相談を実施していますが、職員が児童生徒の思いに寄り添うことができる支援を学校全体で研修していきたいです。</p> <p>・個別の指導計画の質問では、家庭と職員の評価から家庭と学校が連携した個別の指導計画の作成と指導計画に基づいた支援がなされていることが考察できます。今後も児童生徒の実態に合った具体的な個別の指導計画を学級や部で作成し、家庭と確認しながら支援をしていくことを大切にしていきたいです。</p> <p>・授業・チーム支援の質問について、家庭から「授業内容が児童生徒に合っている」「職員が連携して子どもの支援に取り組んでいる」点について高い評価をいただきました。これは個別の指導計画の作成や評価で学校と家庭とが連携をしてより児童生徒に即した授業づくりや、TTなどの同僚性を生かした個別支援ができた成果だと考えます。今後も児童生徒に合った授業づくりやTTなどの同僚性を生かした個別指導を充実させていきたいです。</p> <p>・「小→中→高」の学習支援の積み重ねや教育課程のつながりが家庭や職員の評価から課題であると捉えました。授業研究会で部間を越えた授業参観や情報共有・検討などを実施し学習の積み重ねやつながりについて研究を重ねてきています。新学習指導要領では「深い学び」にいてのアプローチが大切にされますが、各教科の視点や自立活動の視点からも個別の指導計画を作成し評価することにより、教科や自立活動の視点から学びの積み重ねやつながりが明確になると考えます。今後も授業研究の中で学習支援の積み重ねや教育課程のつながりを追究していきたいです。</p>							

学校像2: 地域といっしょに歩む学校

「満足一番地域上伊那」を目指して【地域と】

【地域との連携にかかわること】

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項			評価 平均	5	4	3	2	1	
分教室	家庭	分教室は、地域での存在感や同世代の仲間とのつながりを築き、 地域や設置校と連携した教育を行っている	R1	3.8	46	40	60	5	1
			H30	4.0	38	38	32	4	1
	職員	分教室の活動や児童生徒の様子について知っている (分教室職員:本校の活動や児童生徒の様子について知っている)	R1	3.3	15	50	60	23	4
			H30	3.3	13	49	52	23	3
	職員	分教室と本校は、必要に応じた連携や情報交換ができています	R1	3.5	12	63	60	11	1
			H30	3.5	12	53	65	11	0
副学籍	家庭	副学籍制度により、 地元校での存在感や仲間とのつながり、交流活動は充実してきている	R1	3.5	38	43	59	15	9
			H30	3.6	36	37	52	18	4
	職員	「副学籍」の目的・内容・進め方等について、おおそ理解できている	R1	3.7	30	64	44	15	2
			H30	3.8	28	72	33	9	0
	職員	副学籍制度の活用により、交流及び共同学習、 地域や仲間との関係性が、充実してきている	R1	3.7	31	56	53	6	2
			H30	3.8	26	72	39	5	0
交流	家庭	交流校(西箕輪小・西箕輪中・長谷中・上農高)との交流活動は充実している	R1	4.0	58	56	46	6	1
			H30	4.1	54	61	35	4	1
	職員	交流校(西箕輪小・西箕輪中・長谷中・上農高)との交流及び共同学習は充実している	R1	3.9	38	59	42	5	0
			H30	4.0	33	72	32	4	0
地域連携	家庭	学校は、支援会議を通して、福祉・医療機関や市町村などと連携し、家庭の相談やニーズ に応え、計画的な支援を行っている	R1	4.4	94	52	21	1	2
			H30	4.4	90	57	11	2	2
	外部	伊那養は、上伊那での特別支援学校のセンター的な役割を果たすことができている	R1	4.5	115	36	18	2	0
			H30	4.6	74	29	9	1	0
	職員	家庭のニーズに応じて、地域と連携した支援会議の実施や 「個別的教育支援計画」ファイルの作成が計画的にできている	R1	4.1	42	82	28	3	0
			H30	4.1	34	84	19	2	0
	職員	担当する児童生徒の教育的ニーズの必要に応じて、地域連携支援室を活用しながら、外部 機関との連携ができています(教頭・教育相談・進路・自立活動・特Co・保健室・教務等)	R1	4.1	44	72	28	2	1
			H30	3.9	27	73	33	4	0
	職員	上伊那圏域特別支援教育連携協議会(地域連携支援室)が、圏域の連携役として機能し ている	R1	4.1	49	70	34	1	0
			H30	4.0	40	59	32	7	0
情報発信	家庭	学校からのお便りやホームページ等で、学校の様子が伝わっている	R1	4.5	104	48	17	2	1
			H30	4.5	107	44	9	4	0
	職員	各部・舎・学級等の情報を、家庭に伝えることができている	R1	4.1	49	81	21	3	1
			H30	4.0	28	85	21	5	0
	職員	学校から家庭や地域への情報発信ができています	R1	4.0	41	77	32	5	0
			H30	3.9	29	63	45	2	0
	家庭	地域のボランティアを教育活動に活用している(伊那養サポーター制度)	R1	4.3	86	53	28	2	2
			H30	4.3	82	50	19	3	3
	職員	学校の活動に、ボランティア(伊那養サポーター制度で登録)や 外部講師を積極的に導入している	R1	3.6	26	55	63	9	2
			H30	3.4	17	49	56	13	4
評価の受けとめと今後の方針	<p>・分教室の質問では、設置校や地域との交流が課題であると評価から捉えることができます。本年度も設置校の行事や日常活動で交流を深めましたが、今後も児童生徒が満足することができる交流に力を入れていきたいです。また分教室の活動の様子などもホームページやお便りで発信をしていきたいです。</p> <p>・副学籍の質問では、地元校との交流や連携がさらに制度を活用していく上で課題だと評価していただきました。今年度から副学籍コーディネーターが伊那養にも配置され、家庭や学校と地元校との連携を密にしながら副学籍制度を活用してきましたが、さらに充実した制度の活用となるように副学籍コーディネーターを中心に地域校と連携をしながら取り組んでいきたいです。</p> <p>・地域連携の質問では、外部から地域のセンター的機能について高い評価をいただきました。これは教育相談や巡回相談の職員が地域の小中学校、高校に訪問し相談を重ねたことにより、地域の学校に通学する児童生徒への効果的な支援につながった成果だと考えます。今後も地域の学校との相談や連携を大切にしていきたいです。</p> <p>・情報発信の質問の評価から、今後も学校からの情報をお便りやホームページ等で家庭や地域に丁寧に発信をするようにしていきたいです。また、伊那養サポーターの皆様にもどんぐりまつり等の行事でご協力をいただいておりますが、多くの皆様に伊那養サポーターとして登録していただけるように呼びかけをしていきたいです。</p>								

R1年度 学校自己評価のまとめ

学校グランドデザインを基にした家庭・生徒・職員・外部アンケートより

<アンケート総数> 全 612 件

【保護者/家庭数222】	【職員】	【生徒】	【外部】
小学部 56 家庭 89%	小学部 25 人 100%	小学部 5 人	医療 5 人
中学部 47 家庭 81%	中学部 27 人 96%	中学部 11 人	福祉 45 人
高等部 72 家庭 71%	高等部 36 人 100%	友組 4 人	教育 18 人
全校 175 家庭 79%	つくし 11 人 91%	高等部 63 人	小学校 22 人
	分教室 14 人 100%	中の原 18 人	中学校 35 人
	寄宿舍 21 人 95%	全校 101 人	高校 9 人
	支援室 16 人 100%		企業 2 人
	多職種 10 人 100%		その他 40 人
	全校 160 人 98%		全体 176 人

<総合評価>

学校評価から考察すると、伊那養護学校の児童生徒は、生活づくりの充実から「自分から自分で精いっぱい」力を発揮し、多くの仲間や職員・地域の人と「いっしょに」生活をし、満足した学校生活を送ることができていると考えます。これからも児童生徒や家庭の思いに寄り添いながら児童生徒一人ひとりが様々な人といっしょに力を発揮することができる学校運営をしていきたいです。また、防災と学校施設・設備の充実、地域との連携の学校評価で課題をいただきました。防災についてはプロジェクトチームでの推進、学校施設設備の充実に向けては日頃の点検や修繕と県への要望、地域との連携では地元校と連携した副学籍制度のより充実した活用や分教室の生活づくりに力を入れ、いただいた課題を学校全体で解決していきたいです。来年度も、児童生徒が「自分から自分で精いっぱい そしていっしょに」生活できる学校をめざし、保護者・地域の皆様といっしょに学校を運営していきます。

伊那養護学校